

市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」議事録
【地域別】高松学習館（概要）

日時：令和7年2月15日（土）

10時00分～11時35分

場所：高松学習館 視聴覚室

1 開会の挨拶

（改革推進課長）

それでは定刻となりましたので、これより市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を開催いたします。

本日は土曜日の開催にもかかわらず多くの方に御参加いただきまして、ありがとうございます。

私、タウンミーティングの事務局を務めております、市長公室改革推進課長の奥野と申します。よろしくお願いいたします。

本日の予定ですが、この後、市長からご挨拶いただいた後、意見交換に移らせていただき、11時半終了予定としております。

それでは、市長、お願いいたします。

（市長）

皆様、おはようございます。市長の酒井でございます。皆様方に市長にお選びをいただいて、はや1年とそろそろ5か月、6か月目という時期になってまいりました。昨年、前市長から引き継いで、昨年は「市長と語ろう、タウンミーティング」ということで、前市長が長らく続けてまいりましたので、同じ形で1時間という枠で皆様方のお話を伺って、そのとき私が答えられることはしっかりとお答えをしようという形で取り組ませていただきました。ただ、去年、1時間ではなかなか物足りないなということで、今年からは1時間半という時間を取らせていただくのと同時に、前のタイトルも、市長と語ろうというのもいいなというふうに思っていたんですけれども、どうせタイトルを変えるんだったら、少しはじけちゃおうということで、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長へ。」じゃなくて「市長と。」という形にしました。

ただ一方通行で私にいろいろ御要望をいただくのは、それはそれでいいんですけれども、一緒にこの立川市を変えていく、その仲間として、それぞれ言ったからには一緒に手伝ってくださいねという、そういった思いを込めながら、市長と一緒にこのまちを変えていこうという思いで、ネーミングをこのような形で、ふざけている面もあるんですが、昔やっちゃえ何とかとかという、そういったコマーシャルもありましたけれども、そういったイメージで取り組ませていただいておりますので、御協力をいただければというふうに思っております。

なお、若い方もいらっしゃるのですが、もしかしたらということで初めにお詫び申し上げますが、11月に子育て世代向けのタウンミーティングを予定いたしておりました。当日私の体調不良で、急遽中止という形でご迷惑をおかけしました。ずっと咳を2週間ほど、議会中も出ていて、子どもが多いところでそういった形で出るのは、逆にあまりリスクマネジメント上よくないなということで、失礼をいたしました。もしそちらにせっかく行ったのにとという方がいらっしゃったら、大変申し訳ございませんでした。その分、今日いろいろとご意見を頂戴をできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(市長)

それでは、よろしくお願いします。全て丸投げをされている1時間30分でございますが、我こそは最初という方。

(参加者)

私、高松町2丁目の自治会の災害部長という形で、2000年から20何年やっているんですけども、災害のときに体が動かない、動けなくなる心配があるので、今年を最後にするという事で、最後のご奉公という形で、今取り組んでいるのは、もう以前からやっていますけれども、ここの地域には避難場所が五小と二小しかないんですけれども、住民に比べて避難場所が非常に少ないということで、以前から競輪場を避難場所にということで、やっと市長が動き出してくれたと。今まで全然反応がなかったのが、やっと。そういうことで、今やろうとしているのは、避難所になった後、東京都では、自分のことは自分で守れ、地域のことは地域で守れと言われていきますから、その自分たちが守るための競輪場を、競輪場が避難所になったらどういう管理をするかということを市民サイドで考える必要があるよということで、そういう提案をしているところです。

実は、市民活動の財政を考える会ということで、いろいろと立川市のほうにも提案したりなんかしている活動団体があるんですけども、そこからたまたま2月22日に柴崎学習館で仲間内の、要するに災害に対する勉強会をしようということで、2時間ですけれども、最初に私が災害についての話と、避難所についてのそれこそ意見交換会をやるとということで、22日にやることになっています。もし、立川市の職員でも、市議会議員も参加される予定になっていますので、立川市で考えているということよりも、立川市民がどういうことを考えて防災をやっているのかという、意見交換会みたいな形になると思いますので、参考になるかと思いますので、出席されたらいいかなと思います。

一番に今考えていることは、まず競輪場を避難場所にするということで動いているとのことですから、その具体的な、どういう今状況になっているか教えていただいたら非常に助かります。よろしくお願いします。

(市長)

ありがとうございます。今回こういう高松学習館という場所ですので、たぶん高松町地域、あるいは曙町にお住まいの方が参加者の方には多いのかなというふうに思っております。今、第一次避難場所については今お話があったとおり、第五小学校と第二小学校になっています。特にこの高松町の一部地域、あまり特定しちゃうとあれなんですけれども、やはり震災だけではないんですけれども、一旦火事、火が出た場合にはかなり延焼してしまう可能性があるということとはたぶん、皆さんもご心配をされていることだと思います。これはご存じの方はご存じだと思いますけれども、東京都が地域を指定して、耐震ブレーカー等々導入をしていることに指定をされている地域もあるということで、やはりかねてから住民の皆さんが競輪場をという話をいただいているので、何とか競輪場もね、副次的な二次的な形で避難所として活用ができないかということに取り組んでいます。

ただ、一つ大きなネックが、今、競輪場の位置づけが、災害が発生をしたときに自衛隊等が物資をするときの中継地点という地域防災計画上の位置づけになっていると。これは本来で言えば、近くに駐屯地もあるので、そちらにさせていただいて、こっちは空けてもらうということ

のほうがいいなというふうに考えていて、自衛隊との連携という中で、この競輪場の位置づけを見直さなくちゃいけないと。交渉相手が何も使っていない、使う予定がないというんだったら、すぐにでもどうぞという話なんですけれども、今の計画、また相手との相対の話の中では、直ちにそこをいいですよと言うと、たぶん何かあったときに錯綜してしまうという危険性がありますので、その部分についての整理をしなくてはということが今、若干自衛隊とも話をしてるんですけれども、すぐいいですよという話にもなっていないというところです。

これは今、競輪場工事しておりますけれども、今年の10月を目途に第2期の改修工事が終わると、競輪場の北側、高松町のエリアのほうの壁が撤去されて、競輪やっていないときには皆さんが自由に使えるような広場として開放する予定になっておりますので、そういった状況も生まれてくれば、競輪場の活用ということも、関係機関と調整しなくちゃいけないところがあるので、調整をしていきたいと思っています。また、中にも集合棟があったり、あるいは新しい事務室のほうにもキッズスペースであるとか集会施設もございますので、そういったところも活用ができるようにしていきたいという方向で今、取り組んでいるということです。

なお、ただ最大の心配は、火事が起きたときに、これは高松町とか曙町だけの問題ではないんですけれども、第一次避難所に行くことが必ずしも安全なのかと、仮に出火した場合に、皆さんも想像すればすぐ分かること、北風が吹いていれば、例えば逆に競輪場のほうが火の手が回って二小のほうが危ない可能性もある。南風の場合には、逆にこっちは安全だけれども五小のほうが延焼の危険性が高まるということもありますので、そういった場合には広域避難所として、第二中学校や第二中学校の北側の競輪場の広場という形で、やはりその場、その場の被害の状況に応じて住民の方には、何かあったらもう絶対五小だとか、二小だとかということではなくて、自分の命を守っていただけるような行動につなげていければなと思っています。

あと、後段、市民の皆さんの自助という部分でということですが、私も昨年からいろいろと能登の震災等を受ける中で、広報にも書かせていただいたんですけれども、よく自助、共助、公助という順番で言うじゃないですか。大体、公助の部分って何なのというのがお話できないままに終わってしまうと。やはり公助という部分の最大の使命というのは、住民の命をどういうふうに守っていくか、人命救助を警察や消防あるいは自衛隊に災害派遣の要請をして行っていくことや、あるいは避難所を開設をするという、ただ、この避難所の開設に関しても、地域の方とも連携をして避難所開設マニュアルに基づいて行っていくということがまず、第一義的には基本になります。また、災害復興という次のフェーズに入っていくときに、災害関連死も今問題になっていますので、そういったことも含めながら、ただ、自助という部分に関しても若干考えなくちゃいけないなと思って、備蓄してくださいとお願いしているじゃないですか。私も去年の1月1日に能登の震災が起こったときに、自分の立場をふと考えて、起こったときには私、ずっと市役所なんだと、家族の分の非常用の食料と水と災害時のトイレは、物置に買っておかなくちゃいけないなと思って、そのときオンライン通販で買ったんですよ。一応入ってあるんだけれども、去年の夏に南海トラフの情報が出た後に通販サイトを見ていたら、もう売り切れていて、値段もどんと上がっているんですよ。そうすると、自分で揃えられる人は自分で揃えられるんだけれども、なかなかそれを揃えるのもお金かかる話なので、その部分を立川市の備蓄しているものを今、期限が切れるものを、ローリングストックしているんですが、防災訓練のときに使ったり、あるいは自治会の皆さんに何かのときには、使ってくださいという形で提供はしているんですけれども、具体的にどれぐらいそれで消化できているのかというところは把握をしなくてはいけないんですが、それでも消化し切れていないというのであるならば、捨てちゃうのはもったいないので、しっかりとそこもそういった、なかなか自分でそろえられないような方にも提供ができるような仕組みもつくらなくてはいけないのかなと。いず

れにしましても、令和7年度の中で、次の地域防災計画の修正に向けての検討が防災会議等、関係諸機関の皆さん含めて話をする事になっていきますので、その中で立川市の次の防災計画の修正に生かしていきたいと思っています。という状況でございます。

（参加者）

ありがとうございます。

（市長）

何かそういう会があるときにも、担当もそのとき次第ということになってしまいますし、あとは一部団体のものだけに出るのが、時々政治性を帯びていることもあったりするので、そこら辺はあまり偏った行動を、私は政治家だからいいんですけども、職員はコンプライアンス上等の問題もありますので、そのあたりに留意しながら、参加するかしないかの判断というのは基準に従って対応させていただきたいと思っています。

（参加者）

今の関連で。

競輪場を避難所にするときですね、想像以上に地域の住民が、高松と曙で2万人以上いるわけですから、その人たちがワッと競輪場に恐らく避難すると思うんですね。大災害のときに限っても、そのとき一番大事なのは水とトイレだと思っているんですよ。それで、通路のところは非常用のトイレをすとか、井戸を掘って最低限のことを守るということの計画も併せてですね、検討していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

（市長）

トイレに関してなんですが、今、防災訓練のときにマンホールトイレとかしているんですが、令和7年度予算、議会に送付をして、来週18日から定例議会が始まって、令和7年度の予算案についての審議が、それがちゃんと議決されればという前提なんですが、令和7年度の中でトイレカーを立川市も購入をする方向でいます。これも立川市で1台っていてもしょうがないので、トイレカーネットワークというのがあるらしくて、今回、能登半島とかも、そのネットワークに入っている自治体は、ほかのところで何か起こったときにはワッと行って相互融通をするという、そういったネットワークがあるということなので、そこに加盟ができるトイレカーを立川市でも導入していこうと。なるべく市民の税金の負担を少なくするために、クラウドファンディングを一応やる予定で、大体それは作成を依頼してから1年ぐらい時間がかかるということなので、実際の配備は令和8年になるのかなということです。

あと、今の話で、ワッと来るといときに、ある程度揃えておかなくてはいけないというのはあるんですが、ワッと来たら溢れてしまうという。2万人という話で、2万人入れるのかというと、現実にはそういうことでもないと思いますので、これはまだ確定的な話じゃないんですけども、どこの避難所にどれぐらいの人がいて、どういう状況なのかということとちゃんと行政側としても把握をしなくちゃいけないと思っています。駅前滞留者の問題も、ここにはこれぐらいの人がいて、要は、逆に雑踏になっちゃって二次被害が起きるようなことも考えなくてはいけないし、将来的にはこういうあくまでも私の頭の体操程度の中身を、将来的にはAIとか使って、この位置でこういう写真を撮ったら、正確な人数は分からなくても、このメッシュの中に何人いたら、この場所には何人ぐらいいるだろうということを推計して、できれば皆さん、立川市のLINEとか何とか登録をしていただいているのを、今ここはこういう状況

なので、違うところに行かないと大変ですよというようなことを案内できるような、将来的にそういう技術も進歩してくるでしょうから、そのような対応も何か考えていかなくてはいけないのかなと思っています。これは庁議だったか何かのときに、以前防災課長をやっていた、今は別の役職やっている職員が話していたんですけれども、いろいろな情報が上がってきて、数字が違うんですって。東日本大震災のときだったかな。どれが正しいのかよく分からないということを経験されたということなので、それからもう十何年たっていますから、数の認識の仕方というところもある意味、平時に想定して、どういうふうに数えるのかということはやっておいたほうがいいのかと思っています。

（参加者）

ありがとうございます。

（市長）

では、ほかの方、どうぞ。

（参加者）

曙三第二公園が2023年に新しくできました。公園ができるときに近所の住民に事前説明はありませんでした。事後説明だったんですね。トイレの位置、今現在、トイレの位置がうちの前にあります。臭い、これはすごく困っているんですけれども、出入口のところにタクシーが夜中とまって、ドアの音、エンジン音、とても響いて、窓際の部屋で寝ているんですけれども、それで飛び起きるような状態が、もちろん毎日じゃないんですけれどもあります。それをタクシーの会社の人に、うるさいのと言ったら、それはトイレがあるせいだと言われました。それはそうだと思います。事前説明がなかったので、とても迷惑しています。

それで、公園が拡張されるとのことですか、計画を立てる段階から今度のときは近隣住民に事前説明会を開催してもらって、それで近隣住民の意見を聞いていただき、反映させていただきたい。そして、拡張されるときにはトイレの位置をあそこではなく、違うところにぜひ持って行っていただきたいと思います。近隣住民の人たちに、私たち、意見を書いて出させていただいたりしていたんですけれども、それもやっぱり一応対応はしてくれるんですけれども、納得いくような対応じゃなく、トイレはもう作っちゃったからとか、そういう対応なんですよね。もう少し事前説明があって、きちんとやっていただきたい。だから、もうできちゃったからと言われちゃうので、やはり今度拡張するときは、きちんと近隣住民にも親しまれるような公園にしていだきたいと思っています。よろしくお願いします。

（市長）

ありがとうございます。私も隣に住んでますので、これは私の前の市政のときに作られたということで、当時、私も同じ町会に住んでいますから、地域の方に何か聞いているのかなといったら、少なくとも私の家にはそういう案内は来ていなかったというのは存じ上げています。

ただ、当時の立川市が、全く誰にも声をかけなかったということではないということもご存じだと思います。トイレの位置に関してもいろいろとあったということも。

（参加者）

それは知らないです。

(市長)

私は後で聞いています。初めの位置からずらしたということは聞いております。今後、公園の拡張というよりも、立3・3・30号線、都道の建設に合わせて、今言われているもともとあった公園の真ん中に道路ができると。道路ができるときに、その公園が小さくなっちゃうので、今の場所に新しい公園。何の遊具もないじゃないですか、その部分については、道路ができた段階で一部の部分は緑道みたいな形に整備をするという計画にもともなっているということで、そこの部分をどういうふうに整備をしていくのかということなんですが、ただ、トイレということの移動というお話ですが、それはたぶん、数千万単位の予算を必要とする可能性があります。

(参加者)

700万円で作りましたと言われました。

(市長)

だから、それを取り壊して新しい場所に作って、また下水管作らなくちゃいけないという。過去の経緯がどういう、それも、ほかの場所に移したときにはほかの場所の住民の方がまた同じ話をされる場合もあります。

(参加者)

大きい道路ができるので。

(市長)

大きい道路が反対側にはできる、大きい道路といっても、そこの大きい道路に接道するためなので、公園の形状としてはそれほど大きく変わるわけではない。そのトイレの場所の位置の変更というのは、この場でそうしますという話はなかなかできない話なのですが、ただ、今後新しい公園整備をしていくというのは、当該地区の、私の家の近所の公園だけの話ではなくて、やはり地域住民の方の一部の方の意見だけではなくて、ある程度の近隣の方々のご意見というものを100%踏まえるのはなかなか難しいのですが、大方の理解を得られるような、そういった対応の機会はつくっていきたいと思っています。

(参加者)

確かにトイレの位置を変えるということは大変なことだと思います。でも、近隣が困っているということをきちんと把握して、だから、タクシーが停まることも要望書のほうで、夜うるさいので、何か看板でも、タクシー会社にも言っていただけませんかという要望書を出したんですけれども、それがトイレの入り口のところに、夜の使用は静かにしてくださいみたいな、そんな感じなんですよ。もう少しやっていただければ、何というんですかね、そういうのは見えないんですよ。

(市長)

要は停めちゃってから見えるという話ですよ、その注意してくださいという案内自体も、要はあまり効果のないやり方だということなので、その部分についてはタクシー会社、立川市内には大きいタクシー会社で4つか。ただ、国立市とか近隣市にある会社までは、他から来るところまでは、個人タクシーまではなかなかあれなんですけれども、立川市内のタクシー事業

者に関しては、そういった地域の方からのお話もあるので、夜間等については注意喚起をしてくれないかという、これはあくまでもお願いベースの話で、こうしろとは、パブリックスペースだし、言えないんですけれども、そこは預からせてください。

私が、それこそふだん使っているタクシー会社とかだと、気をつけてよと軽い感じで言えるところもあれば、逆にそれを言うことが立川市として適切なのかどうなのかという、コンプライアンス上の問題で、逆に言い過ぎちゃったら、立川市として、何でそんなこと言われる筋合いがあるのかということがないように、地域住民の声としてこういうのもあるんだけれども、どうですかねと、ご配慮いただけませんかという、言い方って難しいじゃないですか、そこら辺は預からせていただけますか。何となく、同じ地域に住んでますから、状況は分かりますので。

（参加者）

分かりました。ぜひ、拡張するときは説明会と近隣住民の意見を必ず聞いていただいて、今のことをやっていただければとても助かります。よろしくお願いします。

（市長）

ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。では、次の方。

（参加者）

失礼いたします。今回初めてタウンミーティングに参加させていただきます。

私自身、今2歳と3歳の子どもを育てている、現時点では専業主婦なんですけれども、これから上の子が年少さんに上がり、下の子がプレ幼稚園に入ります。私も仕事を本格的に始めようかなと考えているんですけれども、まとめてしまうと、私は食事と運動を立川市でもう少し、例えば給食をオーガニック給食にしていきたいというか、私自身が物すごく子どもたちの食事に気を使っているんですけれども、食事の大切さだったりとか運動の大切さというのをどんどん広げていきたいなという活動を個人的にこれからしていきたいなと思っています。食事に関しては、周りの市区町村も含め、オーガニック給食というのが少しずつ広がっているのをニュースとかで聞いたことがあって、お世話になる幼稚園は給食で、幼稚園で作っているわけではなくて、給食でもらうものなんですけれども、そこに何が入っているのかとか、どういうものが使われているのかというのを問い合わせたところ、なかなか添加物が多かったりとか、野菜も農薬が結構多かったり、輸入の食材が多かったりというのが結構、私的には気になっていて、子どもだけじゃなくて人間、皆さん食べるもので体は作られているので、それは年代とか関係なく、食事というのは物すごく大切だと思っているので、立川の農業されている方の立川野菜を応援するだったりとかそういうのを、もちろんお金がかかるというのも重々承知なんですけれども、無農薬でオーガニックの野菜を広げていきたいというのをできたらなと、理想で思っています。

運動に対しては、私はずっと小さい頃から空手をやっていたんですけれども、空手とエアロビクスを掛け合わせた空手ビクスというインストラクターで、今少しずつ、11月に子ども未来センターでイベントをさせていただいたんですけれども、これを本格的にやっていきたいなと思っております。小さい子どもから高齢者の方まで、運動が全く必要ない方って私はいらっしゃらないと思っていて、まだまだ、やっぱり3歳まではものすごく人間にとって大事な時期に、運動の習い事ってなかなか受け入れられない、受け付けられない、ここもどうにかできないか

などと思って、そういう活動をしたいよねと言ってくださった運動の講師の方と、立川市で親子の体操サークルというのを立ち上げて、0、1、2、3歳ぐらいの運動の機会を設けるという意味で、1年半前ぐらいに立ち上げました。

あとは、今は小学生も体がなかなか弱くて、すぐに骨が折れちゃったりとか、運動も体育もあまりままならないという話も聞いたことがあるんですけども、そういう子どもたちにも運動の機会を与えられるように。あとは、私は1人目を授かるのに大変苦労しているんですけども、その期間中、妊活中は、食事とか体質改善というので、いろいろ変えなくてはと思って、そこからいろいろ勉強するようになったんですけども、やっぱりそういうふうに食事だったり運動だったりという体の面で、心の面ですごく苦労されて悩まれている方を助けたいという気持ちで、インストラクターになりたいということを決意したんですけども、そういう、例えば不妊治療だったりとか、それで助けてほしいのに助けてと言えない方とかもいらっしゃると思うんですけども、そういう方を助けるような活動とか、そういうのを今していきたいなとは思っています。ただ、なかなかまだ話はそこまで進んでないので、食事と運動をというのをもっともっと立川市で私自身しっかり広げて活動していきたいなと思っております。

(市長)

ご要望も含めてということで、ありがとうございます。最後の不妊治療の部分については、なかなかその精神的な寄り添いというところにまでは立川市も至っていないんですが、ただ、特定不妊治療、高いじゃないですか。私は別に不妊治療をしたとか何とかということではなくて、45歳で最初の子を授かって、今、子育て真っ最中なので、子どもの健康であるとか運動というところは、私の子どもも運動不足で、逆に学校行っていると、もう勉強、勉強で、昔だと公園で遊んでいる子供の姿が見えたんだけど、最近あまり見えないじゃないですか。それって、逆にさっき公園の話もありましたけれども、公園で子どもたちがキャッキョッやっていると苦情が来るとかという。いや、キャッキョッやってるのが普通じゃんというふうに思いながらも、ただ、話戻りますけれども、その経済的な負担の部分については、菅政権のときに保険適用することにしよう。東京都も一応補助はしているんですけども、立川市においては令和6年度から、さらに特定不妊治療については上乗せをするということと、東京都の年齢制限のところではもらえないというところについては、横出しをして、まだもうチャンスあるじゃんということに関しては、立川市としての独自の支援策を令和6年度から構築をしています。なので、経済的なところについてはたぶん、他の市でもやっているところはありますけれども、そこと遜色のない制度は新たに導入をしているということはお理解を。ただ、なかなかその心の部分に寄り添うというのは、誰が寄り添ったらいいのかという、立川市の職員が寄り添っても、そういう状況を経験したことがない人間が寄り添っても、たぶん意味ないと思うので、そこは今後の課題かなと思っています。

あと、運動に関しても、今、様々なニュースポーツもあれで、モルックだとか、それって子どもだけではなくて、やはりご高齢の方も、いかに健康で長生きをしていただくのかという中では、新しいニュースポーツというものも極力周知をして、なかなか市が主催してということではなくて、民間のそれぞれの団体、立川でいうとスポーツ協会さんが地域にそれぞれ体育会というのがあって、やっていますから、そういったところを通じて広げていけるような取組、立川も委託をしているところもありますので、広げていければなと思っています。

最初の食事の問題なんですけれども、学校給食はご存じのとおり、小中は私になってから無償化しました。私の公約は小学校だけだったんですけども、市の財政状況を見ると小学校だけだったらできるなというので制度設計をしたんですが、東京都が半分補助を出してくれると

ということだったので、じゃあ、中学校までできるよねということで、ただ、東京都の補助がなくなってしまうと、中学校のほうまでは回らないので、中学校は毎年の判断にさせていただいています。ただ、なくなることはないだろうと、小中学校無償化をさせていただいているのに併せて、令和7年度の予算の中では、認可保育園における、0、1、2はもう保育料の中に含まれているので給食の副食費という形では徴収はしていないんですけれども、3、4、5に関しての認可保育園は1,000円だけは保護者負担してくださいねという形になっています。それ以外、3,700円ぐらいと主食費のほうは、もう既に前から立川市で補助をしていると。この1,000円だったら、今年の9月から東京都が第一子の保育料も無償化をするという方針を出されていて、東京都の無償化により立川市が現在負担している部分も含め東京都が出してくれることで軽くなるんだったら、じゃ、その1,000円をやめちゃおうかということで、徴収事務の負担も現場にはあるので、ですから予定では、これも予算が通ればの話ですが、今年の秋から立川の認可保育園については保育園の給食の1,000円負担もなくす方向で、先日記者会見で発表させていただきました。

その上でなんですが、なかなかオーガニック、難しいんだよね。全部それをやって、学校給食に関しては2つの共同調理場で作っているんで、そこにはなるべく立川の地場産野菜を入れようということは進んでいます。今の学校給食課は気を利かせてくれているんですけれども、農家さんとの関係で、大量に同じような規格のものを納入してもらおうというのも、作付の時期とか、あと天候によっても左右されてしまうというところで、なかなか量が安定しないということが課題としてあるということなんです。過去、昔聞いた話では、規格に合わない、私が市長になる場合に、受け取ってくれないみたいなことがあって、それもつたいないじゃん、別に規格が合っている方が合っているまいが味が一緒だったらいいでしょということで、最近、今の学校給食課長はそこら辺は融通を利かせるようにして、逆に規格に合わないものは別のものに加工してもらって、なるべく無駄にならないように、残渣にならないような形で対応しているので、学校給食に関してはオーガニックとまではいえないまでも、極力立川の地場産の野菜の活用はしていこうという方向です。その部分については今後とも継続をしていきたいと思っていますし、立川の学校給食のお米、今高くなっちゃって、皆さんも大変なんでしょうけれども、このお米に関しては、立川市の姉妹都市の大町市のお米を、立川市の学校給食では米飯のときには大町市のお米を直接仕入れて使っていると。ただ、これも今、相場が、1回、10月にお米なくなっちゃって、大町からも入ってこなくなっちゃって、あちこちからかき集めてやったんだけど、11月から復活してと聞いていたんですけれども、ただ、2割、3割ぐらいは直接入荷でも高くなっちゃっているんで、うちとしての支払いは高くなっているんです。ただ子どもたちの、質を落とすということはないようにしていきたいと思っています。オーガニックは、今の段階で全てオーガニックにできるのかというと、すぐにはと言えません。ただ、この50の私の世代と今の子どもたちって明らかに体系違うじゃないですか、腰の位置が全く違う、足長くなったよなど、どの子を見ても。これってやっぱり食生活が、私たちが育った昭和の頃と平成、令和の頃では違うのかなと、やっぱり食べ物が人間の体って作るし、遺伝子もどんどん変わって行って、人間もどんどん進化していくから、その進化の過程の中なのかもしれないんだけど、従来と、あと生活習慣のこともあるんですけれども、そういったところは違うのかなというふうにも思っていますので、まずは第一は安全な食材をといるところの観点では留意はしていきたい。オーガニックと言われちゃうとなかなか、100%そういうふうな話にはなりにくいなというところはご理解いただければと思います。ご提案として承ります。

（参加者）

関連質問で、1点いいですか。簡単に終わります。今、立川市では2つの調理場で作って学校に配られているという話でしたけれども、学校内で調理、提供するということの要望と、立川市での考えてあるかどうかをお聞きたい。

（市長）

実は私、選挙1回、市長選挙落選しています、5年前に。その当時に、従来は第一小学校から第九小学校まで、昔からある学校については自校方式で、それぞれの学校で調理をしていたんです。それを前市政のときに、中学校給食がなかったなので、その導入に合わせて自校方式をやめるという方針を立てていたんで、中学校給食は新しくやるからあれなんだけれども、自校方式残したほうがいいんじゃないと。私はそれはなぜかという、さっきも言った第二小学校も第五小学校も自校方式だったわけですよ、もともと。それをセンター方式に前市政の中で変えた。私がその当時、なぜ残したほうがいいのかというのは食育の、ぷ〜んと臭いがしてくるということもあるし、小さい学校の単位のほうが地場産野菜とか、大量になくても融通が利くよねと、あとは地域の防災の拠点であるから、調理施設があるというのはいいよねということで、私は残しますというので選挙出たんですが、負けちゃいました。残念ながら、257票及ばなくて、私は落選をしましたので、その当時の市民は私の主張よりも現職の方のほう、別にそれがシングルイシューの戦いじゃないし、いろいろなことが複合的なんだけれども、現実問題としてはそこでもうストップすることができなかった。

私になったときには既に学校給食のセンター方式にもう変わっていて、もう工事、それぞれの調理場があったところも配膳室に改修をしてしまっているんで、もう今さら後に戻すということとはかなわないので、であるならば、そこで私の発想として、当時あまりやっているところじゃなかったんだけれども、じゃあ全ての今までセンター方式で食べていた子どもも、今までセンター方式から自校方式に比べると、私の子どもに聞いても違うんだよねとか、五小のお子さんにもどうと聞いたりすると、ご飯固いときがあるんだよねと。前市長がなぜそういうふうにしたのかという意図は漏れ伝わることはあるんだけれども、集約化したほうが少し経費的には将来的にはいいのかなというようなことは、それは本当か嘘か分かりませんが、確かに人件費とか何とかという部分においては効率化というのは一応想像できる。だったら、その効率化できるお金でお父さんお母さんの子育ての負担を軽減することにお金を使うと。時計の針は戻せないから、じゃあ、代替策をしようということで、さっきの給食費の無償化という形で、2回目の選挙のときには公約の一つに掲げさせていただいた。過去はそうだった。残念ながらそれを維持することは、私が選ばれなかったから、できなかったということです。なので、もう市長に今なったからといって時計の針を戻すと、それは逆に混乱だし、立川市としては市民の皆さんに逆に負担をかけることになるので、できないという判断はしています。

では、次の方、お待たせしました。

（参加者）

今日は貴重なお時間ありがとうございます。

感覚値になってしまって大変申し訳ないんですけど、私の実家が高松町2丁目にあって、五小の近くなんですけど、すごく自転車の往来が危ないなと思っていて、私はずっとそこで生まれ育ったんですけど、昔に比べて外からの流入が増えたのか、自転車の量がすごく増えていると思っていて、大通りとかは結構、路上にちゃんとペイントされていて、こっちを通りましょうというような記載はあるんですけど、路地裏が結構、マナーがあまりよくな

いとか、私の実家の前も結構事故が起こったりとかして、接触事故とかそういうがあるので、どうしていいのかわからないんですけれども、そのルールとか情報発信というのをしていっていただけたら有り難いというのが1点。

あともう1点が、夜間の路地裏が結構暗くて、それも交通と関連してくるんですけれども、そこを結構自転車が飛ばしていたりとか、あと、うちの子どもとか妻が歩くのが怖いであったりとか、以前、家の前がクランクになっていて、自動販売機が置いてあって、結構明るかったんですけれども、それが撤去されたことによって、本当に暗いんですね。なので、ルールは決まっているとは思いますが、もう少し明るくなったら安心して歩けるまちになるんじゃないかなと、それを今日伝えに来ました。

（市長）

ありがとうございます。自転車のマナーというのは最近、昔からなのかもしれないんですけれども、目に余る事故が起こったりということで、立川市においては、小学校3年生で自転車教室をやって、子どもの時期から注意喚起をしようということで、継続的に市内の各学校で取り組んでいます。私もPTAの役員やっていたので、セッティングとか何とか一緒にやった経験はあるんですが、ただ、大人のほうが、段々年齢が上がるにしたがって、歩道を歩いているのにリンリン鳴らして邪魔だとかという、その方はおじいちゃんだったんだけど、そっちが危ないんだよと、それは別にどういう世代がそうかという話ではなくて、もう個人の特性によるんでしょうけれども。あとは高校生等々とかも結構飛ばしている。そういう裏路地、たぶん私のイメージしているところは、高松大通りから見て北側のところでクランクになっているところとか、第五小学校の裏のところとかというイメージですよ。高松バイパスに行くところとある程度あるし、こちらの高松大通りのほうもナビラインで。これは警察の話なんですけれども、今、自転車も歩道通行可になっているじゃないですか。基本的には歩道の幅員がちゃんと自転車走行帯と歩行者の歩行帯が明確に区分できないところに関しては、今もそうなんだけれども、原則どおり歩道通行可ではなくて車道にという方向で交通規制変えるそうなんです。だから、立川市で言うと昭和記念公園の周りの広いところとか、そういうところはそのままだけれども、それ以外の高松町の通りとかのところはもう自転車は基本的に車道をと。車からすると、またそれは危ないということはあるんですが、ただ、小学校6年生ぐらいまでと、70歳以上の方は例外という、そういった法律の建てつけになっている。なので、警察のほうにも、そういう要望があって、結構パトロールのときに注意喚起してくださいとかということはお願いができるんだけど、最後は本人のマナーによるところなので、そういう裏路地の自転車のマナーも取締りを厳しくしているじゃないですか。最近、私もちゃんとヘルメットを、義務ではないんだけど、やっていないと市長がやっていないと言われるので、ヘルメットかぶるようにしているんですが、そこら辺も警察もね、実際、青切符切ったり赤切符切ったりで、また4月から厳しくなりますよね。飲酒で自転車に乗ったら赤切符とか罰金とかということも出てくるので、立川警察署にも裏路地の、特に高松町でそういう話があったので、注意して見てもらえますかということはお話ししたいと思います。

あとは、照度に関しては一応規定があってやっているんですけれども、一方で、どこかを明るくすると、その近所の人から夜明る過ぎて、さっきの話ではないけれども、寝られないということも出るので、どこにつけて、どこか明かりかというのは、なかなか難しい話ではあるんですが、確かにイメージとして暗そうだなというのは私も、子どもの頃からこの辺りうろちょろはしているので分かりますので、そういった市道に関しては、街路灯の設置は立川市の責任なので、照度等が規定に合っていないところがないかどうかというのは、調べるように指示し

たいと思っています。だから将来的に、今LEDにどんどん替えていっているじゃないですか、街路灯って、都道は東京都がやっているんで、市道は立川市なので、それ以外に防犯灯という形で自治会が設置をしているのに補助をしたりだとか、商店街だと商店街の街路灯、装飾灯とか、それがなくなってしまうと、また暗くなってしまうというところもあるので、道路規則上どうなのかということをちゃんと調べた上で、もし本当に規定上足りないというところがあったら、それは合わせていきたいと思っています。

（参加者）

ありがとうございます。

（市長）

では、ほかに。どうぞ。

（参加者）

2つあるんですけども、年金のことなんです。昨日今日、2か月に1回年金が出ますよね、それで、テレビなんかでも結構やっているんですけども、私も一応、女性ですけども、七、八万、年金制度ができたときって女の人ほとんど払わないで、世代主が払っていた。それから全員払うようになったけど。それ考えると、今2025年問題で、私もその一人、該当者でもあるんですが、1回も結婚しない男と女、昔は私、立川市に来て、あの三陸の津波の岩手県から東京に来て55年ぐらいたつんですけども、そういう感じで、特に女性の場合は事務職、男性は現場とか営業とかなったときに、年金を男性の方は払ったから、そこそこ税金部分である国民年金はもらえますよね。あと会社勤めれば厚生年金もらえますよね、もっと景気のいい会社は、かつては第3年金ももらえましたね。何を言いたいかというと、結局女の人というのは、払うのも少なかったかもしれないけれども、七、八万なんですね、2か月を1か月にするとね。そうすると、やっぱり男性とは差があるし、やっぱり七、八万だと、テレビなんかを見ていると、家賃がいくらで、そのほかに健康保険とか社会保険とかいろいろかかりますよね。実際に使えるお金が2万円とかね。人によっては日本国民は、生活保護をもらえる。

（市長）

健康で文化的な、憲法25条ですね。

（参加者）

そうすると、七、八万じゃなくてせめて、現にもらっている人もはっきり言って、いるんですよ。だから日本国民であるからには、年金七、八万の人には補充、15万か何万円か、やはり皆さんもらえるようにしないと、ある部分でお金のある人はすごくあるみたいだけれども、特に女のずっと一人で来た人、これからでもじゃんじゃん独り者の男も女も増えると思いますよ。そうすると、最終的には立川市だって国だって税収が入ってきませんよね。そうすると、年金だから今国で言っているのは、やれ結婚しろ、やれ子どもを産めということは、近々来るであろう年金を払っていただきたい、子ども増やしたいから、そういうことを言っているんだけど、子どもは、1年生は2年生に、2年生は3年生になる。だけど高齢者はいついなくなるか分からないんですよ。そこら辺のお金の残し方、使い方。だから、立川市としても、今ここは立川市ですけども、立川市から東京都に行って、国に行って、そういう制度を、三、四年を見て、そういう制度を変えていかないと駄目なんじゃないですか。それで、国会議員も都議

会議員もそうかも分からないけれども、身を切る覚悟とは言いながら、月100万円は自由に使えるお金があるとかね、だけど、実際に1人で生活して年金もらっている人は七、八万で、年間でも100万円に行かないですよ。人口が三、四年経てば、今1億2,000万だけれども、三、四年経てばたぶん1億切ると思いますよ。そういう人たちが増える中で、立川市としてはどう考えていますか、三、四年先のことになるかもしれませんけど。

（市長）

今、2025年問題にいよいよ突入をして、団塊の世代の方々たちが後期高齢者になるという、そういったことを2025年問題と言われておりますが、今のお話は市長の立場で変えるとは言えない話だということはご理解された上でのことで。

（参加者）

話を聞いていただいて。

（市長）

私も実はそう思っています。年金払って、今の日本の制度って、真面目に働いて年金を、国民年金なり何なり納めていた人と、いろいろなご事情はあるんでしょうけれども、憲法25条に基づく制度によって生活保護をもらっている人との逆転が起きているじゃないですか。そこって矛盾だよ。ねと。

（参加者）

そうです。

（市長）

そこをやはり、これは政府、国の年金施策の中で、それぞれの政党によって主張の仕方は違うけれども、要は基礎年金の部分については、それはある程度、生活保護を支給している基準に合わせないと、それは不公平だよ。ねと。その上でさらに働いて余計に掛けていた人は上がっていくという。

（参加者）

それも問題あるけど。

（市長）

でも、それはそれで、要は金持ちが悪いわけではなくて、それはお金を稼いでいる、要は日本って昔は高額納税者を、あの人が何か悪いことしているんじゃないのみたいな。いや、一生懸命頑張って働いている人は頑張って働いて、社会保障を担ってくれているわけだから、そういう人がいなければ福祉って成り立たないじゃないですか。税金の再分配をしているのがある意味、国であつたりとか地方自治体なので、そういう人には感謝して、もっと稼いでくれというふうにならないと、お金って回ってこないわけだから。ただ、その部分は将来の保障という面で言えば、本当に持っている人はさらに投資したりとか、今、国もNISAだとか、iDeCoだとかという形で取り組んでいますけれども、それは私はたぶん同じ考え方を持っているんだけど、それを立川市として何かできるかという話になると、共感することしかできない。

(参加者)

それを何か立川市から東京都に持って行って、東京都から国に持って行って盛り上げていかないと、立川市では絶対解決できません。

(市長)

だからそれは、多くの政治家はたぶんそう思っていない人もいるのかな、中には。

(参加者)

身を切る覚悟をしていない。

(市長)

でもそれは、国政を担う方たちに、議員内閣制なので、国会議員の中から国のトップが選ばれるわけですから、国政の場において選挙を通じて、皆さんがそういう方向性を望んでいるという形の政策を実現してくれる政党を支持することによって、国の方針を変えてもらうということしかないと思います。立川市が言う話でもないかなと。だって、国民の皆さんが、有権者がそういう判断をしている。

(参加者)

ある程度盛り上げていかないと。

(市長)

盛り上げというか、それは、冷たい言い方するかもしれませんが、私も選挙で選ばれています。私は立川の市政を担うということで、立川市の中でできることをどういうふうにするかということで政策を立てて、過半数の人に選ばれているわけではないけれども、一応選挙制度の中で選ばれています。それぞれ国の制度で、国会議員なるものがあるわけですから、そういう国にしていきたいという、その思いを有権者の皆さんが行使していくということしか、やはり世の中って変えられませんから。何でも地方自治体を通してという、言うことは言いますが、立川市にとって、不利益な問題だとかなんとかというのは、ふざけるなよという話はしますけれども、それ以外の国の大枠の部分については、それはやはり選挙を通じて皆さんが意識を、国の在り方をちゃんと考えていただければなということしか申し上げられない。でも、言っている意味はよく分かります。

(参加者)

さっき選挙の問題が出て、投票率がよく各県も市も都も、いろいろな新聞見ていると、46%とか50%とかいうんですが、日本国民で選挙権があるにもかかわらず行っていない、だから投票率がおのずと100%には絶対ならない、そこら辺をやっぱり、期日前もできるし、AIMも近いから本当は行く気があれば行けるんでしょうけれども、はっきり言ってご自分の体を支えるのが精いっぱいという方が多いので。やはり選挙の投票率を上げていかないと、40%で当選した人、60%で当選した人、何か平等性じゃないけれども。あと、だから1億2,000万が4年後ぐらいに、例えば1億切って、もっと切ったらば、国会議員も減らさないと、歳費だっていろいろかかるじゃないですか。だからそこら辺も考えていかないと、それを8万円の年金の方に乗せしてあげる、そんなとっぴな考え方も私考えているんです。いかがでございますか。

(市長)

そういうとっぴな考え方を取ってくれる国会議員を、もう同じ答えになっちゃうんですが、私も選挙で選ばれている身ですし、市長選挙になると、なかなか40%も超えないと。でも、市長替わったら結構まち変わるでしょうと。市議会議員の選挙のほうが投票率高いけれども、市議会議員が1人替わってもそんなに替わらないでしょうと。なのに何で関心持ってくれないのかなというところは、政治家としてはジレンマがあります。国政選挙のほうは、みんな騒いでくれるから、投票率は少し。

ただ、立川市としてできることは、選挙管理委員会という別の行政機関がするので、私はあまりああだこうだと言い過ぎちゃうのは良くないんだけど、私も選ばれる身だから。ただ、選挙管理委員会には少なくとも期日前投票所の機会を、これは議会からも言われているので、南のほうにも増やすというのは、増やす判断をしてくれれば予算はつけるからという形で、去年の東京都知事選挙から立川駅南口にも期日前投票所、日にちは短いんだけど、設置させていただいています。そういった投票機会の拡充ということをするしか、こちら側としては手がないと。だから、あとは有権者の皆さんが、行かないということは白紙委任ですよ。忙しくて行けないという方もいるかもしれないけれども。

(参加者)

体の問題も。

(市長)

それは、日本国民の私は民度だと思います。民度に合った政治家しか生まれない。私もその制度の中で、その皆さんの民度の中で生まれた市長だという。でも、私は私のできることを一生懸命頑張ろうと思っています。

(参加者)

投票率を上げることを期待しております。

(市長)

投票率が上がってくれることを私も期待しております。そこは一緒ですね。
では、ほかに、どうぞ。

(参加者)

立川市民歴1年と数か月のまだ新参者です。1月の広報たちかわを見て、この「言っちゃお！市長と。」というのを見て、すごく衝撃的でした。こんな申込み不要で、いきなり行って市長さんと話せる機会があるなんて、私、生まれて60年になりますけれども、もう初めてで、こんなすごいことをやっているんだと思って、市長さんはじめ行政の方に感謝申し上げております。

私が来てから1年数か月ということで、この間、東京都知事選挙もあったんですけど、私の聞きたいことは、まさに今の方が2番目に質問されたことと関連したことでもあるんですが、投票率が悪いと。それだけで東京都知事選のことを評価はできなかったと思うんですけども、今年も、2025年度も参議院選挙とかもあります。

(市長)

都議選もありますね。

（参加者）

いろいろあちこちで、選挙年度になるという話があります。直接立川市とは関係ないかもしれませんが、選挙投票率を上げるという意味で、今話聞きましたら、選挙管理委員会には市長としては、選ばれる身ですし、あまり言えないということを言いながら、投票率は上がってほしいと思っていると、自分でできることはして、あとは民意というふうにおっしゃられましたけれども、それでは何か弱い感じがして、市長さんの真意はどっちなんだろうというふうに、今聞いていて疑問に思ったんですけれども、じゃあ、選挙管理委員任せになるのか、市長としてできることはどういうことなのか、具体的に教えてほしいです。

（市長）

私の基本的な考え方は、投票率上がってほしいと思っています。より多くの民意で選ばれる存在でありたいと思っています。それは基本的に政治家としての考え方としては、そういうスタンスです。その上で、基本的には選挙の事務、選挙運営をするというのは選挙管理委員会なんです。例えば、先ほどの投票所をどうするかとか、当然、法律の範囲に基づいてやっているんだけれども、利便性を上げるとかという部分から言うと、今、期日前投票の割合がどんどん増えているので、期日前投票所を増やすという判断であったりだとか、あるいは、よく投票済証って、私も一回ももらったことないんだけれども、それをもらうと、どこかのお店と提携をして割引が得られるなんて、気の利いていることをやっているところもあるじゃないですか。そういった選挙事務に関わることに限っては、選挙管理委員会という、議会で選ばれた選挙管理委員という人が立川市も4人いらっしゃるんですけれども、そこで協議をして決めるという。そこのお手伝いをする方を市長としては、事務局として市の職員を配置しているという、そういった建てつけです。なので、要は選挙について、私も期日前投票所を増やしたほうがいいんじゃないと、考えてくださいねと、あくまでも決定権は向こうにあるんです。一応、建てつけでは別の行政組織になっているので、その部分については、先ほどお話ししたように、期日前投票所をもうちょっと増やせないのかなということをぼそっと投げかけてみて、でも、増やせとは言えないんです。増やしてみたらどうですかねという、最後は、それにはお金がかかりますよねと、お金はちゃんとこっちで担保するからという。決定権、命令権がないということです。

その中で、市長としてどうなのかということは、やっぱり、さっき民度という話もしましたけれども、市民の皆さんが、例えば立川市であれば市政に関心を持ってほしいということで、こういったタウンミーティング等を行うことによって、市民の皆さんにも市政に関心を持ってもらおうという機会をつくったり、あるいは、私が市長になってから、まだ全然空回りというか、空振ってしまっているんですけれども、市の広報、要は市民の皆さんに立川市がどういう、例えば施策、サービスがあるのかということも、市民の側がなかなか調べないと分からないじゃないですか。これは立川市だけの問題ではなくて、どこの行政もそうなんです。予算通りしました、新しい制度をつくりました、つくったら終わりなんです。一応ちゃんと、申込みしてくださいねというのを広報たちかわとかで流したりとかというのはあって、ホームページ調べれば見えるんだけれども、そこを、例えば動画だとかなんとかで、これはちょっと広報プロモーションの方には言っているんですけれども、民間企業であるならば、自分の商品だとかサービスを使ったらあなたの人生がこういうふうに豊かになる、暮らしやすくなるということをイメージさせてPRするじゃないですか。だから買いたくなったりとか、サービスを受けたく

なる。立川市も何かの制度をやったときには、この制度を使ったらあなたの今の生活が少しでもこういうふうに豊かになるとか、便利になるとかという、そういったイメージが湧くような広報のPRの仕方を、民間と同じようにやらなくちゃいけないんじゃないのと。なるべく、せっかく制度として構築したのであるならば、それを市民の皆さんに使い倒してもらうぐらいの気持ちで、プッシュ式でPRしていくように変えていきたいということを伝えています。

ただ、それがまだ十分には機能はしていないなという、やっぱりそれも能力の問題だとか、センスの問題だとか、あとは立川市の職員もほかの仕事もしているので、なかなか私が言ったことを全部すぐにできるという話ではないんだけど、そういう意識を持ってほしいということと変えているということと、私自身ができることとしては、やはりこれは、一政治家としての市長としてなんですけれども、市政に関心を持ってもらいたいということもあって、自分の中でのYouTubeチャンネルだとかというの、毎週こんなことやっていますとか、こんなトピックスがありますということは市長就任以来ずっと、毎週土曜日の夜6時になるとYouTubeのショート動画で、全部自分で木曜日とか金曜日ぐらいに市長室で、今週こんなことがあってとかという簡単な動画なんですけれども。それを自分で撮って、自分でスマホで編集して、それを継続的に発信をして、少しでも見てもらう、市政に関心を持ってもらうような、自分のできる範囲の努力はしているというつもりです。ただ、これも息の長い話で、それがすぐ即効性があるかという、なかなかないし、立川市の職員も、立川市の公式チャンネルとかそういうのでいろいろと発信はしてくれているんだけど、上手く刺さっていない。こんなこと、職員のほうが上手にできているんだけど、私のチャンネルの動画のほうが、底辺の争いなんです。けれども、視聴回数は私のほうが多いとかという話なので、そこら辺をちょっと今後どういうふうに、また新年度組織も変わってきますので、その中で広報戦略をいかに立ていくのかということは課題なのかなと思います。

やはり地域のこと、また地元のこと、行政のこと、自分たちの本生活圏のことに、いかに市民に関心を持ってもらって、それが自分たちの投票行動、誰を選ぶかによって大きく変わる可能性がある、それは良くもなるし悪くもなる可能性があるということを、皆さんが自覚をしてもらえるような形で意識喚起をしていかななくてはいけないのかなということですね。でも、首に縄つけて選挙に引っ張ってくるわけにもいかないわけなので、そこはずっと、これは政治家としてはジレンマですね、私も30年間政治家やっていますけれども、そういう状況です。

（参加者）

追加でなんですけれども、選挙管理委員会の4人を協議して決めるということで、どんな方が選ばれているか分からないんですけども、東京都知事選を見たら、投票率アップしてもらいたいという、一個人がもう街頭に立って、選挙いつでもできますよ、何も手ぶらで行けますという、立っている方がいるぐらい、私以外もこちらの方も含め、投票率が悪いことに危惧していらっしゃる方は多いと思います。それで、選挙管理委員会のやっていることは、何か全然毎年変わっていないよなと強く思うので、市長として指示、命令はできないにしろ、選挙管理委員会と別に、この広報の便りでは推進委員みたいな方たちもいる。

（市長）

明るい選挙推進員ですね。

（参加者）

車椅子、体の不自由な方、歩行器を使っている方すらも投票に行くのが困難で、移動投票所

の推進を提案しているという方も1人いらっしゃったりしてまして、これは画期的だなと思います。

私も高齢者と触れる仕事をしていますので、ここにいらっしゃる方はどれだけ投票しているんだろうなというふうに、本当に前から疑問に思っていたこともあったので、今後、市長さんが、こういうのはどうだろうというふうな形で言えるのであれば、こういうことも押し進めていただけたほうが、投票率アップにつながるのではないかとかと思ったりします。

（市長）

ありがとうございます。議会からもいろいろと、議員さんからもそういう提案ってあるんですよ。なので私からも。ただ、要は最後、本人確認の手段で、この人は投票したよというのをシステム上、選挙人名簿でチェックをしていかななくてはいけないということなので、通信環境がある程度、サ高住に行ったりだとか、特別養護老人ホームに行ったら、そこに誰がいるのか分かっているじゃないですか、名簿があるから。ただ、移動投票所というところになると、誰が来るか分からないというところで、その人が本当にその人なのかどうなのかというところをいかに担保するのかというところで、そういう話も実はしているんだけど、課題ですよ、みたいな形で終わっているの、将来的には私、他の市では電子投票のちょっと手前みたいな、投票所まで来てボタン式で選ぶとかということを検討したい。将来、マイナンバーをみんな持っていたら家からでも投票できるんじゃないか、ただ、なりすましをどうするのかというところの課題はあるんだけど。現実世界でもなりすましってあるじゃないですか、時々捕まる方もいるという。そういったところをクリアしながらでも、今こういったお話をタウンミーティングでいただきましたということを選挙管理委員会に、考えようよということは投げかけさせていただければと思っています。ただ、最後の判断、決定権は私にないということだけご容赦をいただきたいということです。

次の方、どうぞ。

（参加者）

老人会のほうで、市長に要望というメモをもらって、シニア向けの公園なんかの遊具が欲しいと書いたんですけども、そのお返事がどうなっているのかなというのと、あと、この間も3歳の孫があひる公園で、もう走り回っていたんですよ、小学校1年生のお兄ちゃんの後を。本当にそういう広場があれば、今の子どもでもこれだけ走り回るんだというのを、すごくもう感動したんですけども、ぜひ子どもたちが走り回れるような公園が欲しい。あと、去年の二小の建て替えの説明会でもちょっと納得いかなかったんですけども、今年小学校1年生の子どもが、もう来年、学童に行けないようなことを言っていたので、学童のことをどうなっているのかなということをお聞きしたいです。

（市長）

老人会のことについてはどういう回答をしているのか、担当のセクションに聞かなくては分からないので、それはまた追って回答するという事で預からせてください。

公園等で走り回るというところは、よく要望が多いのは、ボール遊びができる公園をという話。現状のルールでもボール遊び、立川のもともとのルールは本当は幼児が柔らかいボールでボール遊びするのはオーケーなんです。そのルールではない、ボール遊び禁止と書いてある。でも、それはボール遊びの程度が違うというところで、ルールは明確化をしていこうということはやっています。

あと、学童についてなんですけれども、今、私になってから学童の待機児、小一の壁を解消していこうということで、いろいろと取り組んでいるんですけれども、先日、待機児童の数がワースト何位とかに立川市は入っていた。これは保育園のときと同じように、増やすとまた希望者が増えてというところがあるんですが、ただ、絶対量としては足りない。特に九小学区だったかな、立川のエリアの中でも本当に待機児が多いところに関しては、令和7年度の中で新たに学童保育を1か所は増やす予定です。あと、西砂町の辺りが今、子どもたちが増えていて、教室も足りないという話なので、そこも学童とくるプレと一緒に運営をして、定員枠を増やそうということをしています。あと、くるプレを市内4つの学校に、新たに令和7年度の中で増やしていくということと、あと、特に小一で、二小もくるプレしていますが、建て替え中も学童は今のままであそこにありますので、そこは変わらない。ただ、学童だけではなかなか足りない。くるプレが、これまでは小学校1年生に関しては6月からしか預かれないということになっていたんですけれども、それはちょっと制度を学校とも相談をして変えて、4月の給食提供日から預かる、くるプレを利用できるように、制度をここで変えさせることにしましたので、それは令和7年度から、これは市内全域でくるプレを導入しているところの制度設計を変えると。親からすると6月って意味分らないじゃないですか。学童に入れた子はいいいけれども、くるプレのほうが結構人気あったりするんですよ、そのほうが楽しいという。なので、くるプレを選んだとしても、4月、5月って親は働いているんだしというところで、これって変だよ。でも、学校の校庭を使わせてもらったりしているから、学校側の理解得なくてはいけないよねということで、既に導入をしているところは一応理解を得られたので、これからはもう4月8日とかから、給食が始まることから、くるプレは小1でも年度当初から利用ができるように変えます。

さらに、夏休み期間中の学童で、お昼、お弁当を持っていかなくてはいけないというのが大変だという、そういったご要望があったので、令和7年度の中で、オーガニックではなくて申し訳ないんですけども、事業者さんと契約をしてもらうことによって、自己負担なんですけれども、その時間に弁当の配達をする。そういった夏の間の腐っちゃうとか何とかというのもあるので、お父さん、お母さんがお弁当作るのが大変だというご家庭はそういうのを利用してくださいという制度は、令和7年度のたぶん夏休みから導入できるのかなと思っています。というふうに今、学童の質と量の改善に向けて一つ一つ取り組んでいるという状況です。なので、二小の枠が広がるわけではないんですけども、使い勝手を良くしていくことによって変えていこうということと、あと、建て替えが全部終わった段階においては、今の学童、昔からある裏のところはなくなってしまうんですけれども、学校の中に学童のスペースを取り入れていくという形で対応するということになっています。裏のプールはなくなります。

ほかに何かありますか。

(参加者)

歩いたりしていると、空き地があちこちにいっぱいあって、でも、公園で子どもたちが遊ぶところは少ないという感じがあるんですけれども、もうちょっと高架下とか、国立市なんかを見ていると、すごく有効に使っているの。

(市長)

高架下はJ Rから借りているんです。高架のときに沿線市がお金をそれぞれ出しているんですけども、結果としてJ Rさんの商売につながっているだけで、立川市も一部、倉庫として近所のところは借りているということなので。あと、空き地があつてというところはあるんです。

が、その小さいのは今、開発をするときって、マンションとかを建てる時に小さい公園とかを作りなさいと、公園緑地で作りなさいとやっていて、マンションができた当時は若い方が入ってきて遊ぶじゃない。でも、みんな大きくなってしまうと、誰も遊ばなくなってしまう。小さ過ぎて、草ぼうぼうになっているということがあるので、その管理をどうするのかという。今後、都市計画上の開発行為に基づく公園の提供ということの在り方も考え直さないと、あまり意味のない公園で、管理だけかかってしまうというのもどうなのかなというのは、今後考えなくてはいけない課題かなと。ただ、既存公園をどういうふうにも有効に使いやすくしていくのかと、昔はあひる公園でもゲートボールやっている方と子どもを遊ばせているお父さん、お母さんとでけんかしていたりだとか、なかなかそのすみ分けも大変だったりするので、そういうことのトラブルが起きないように、いかに多くの方に遊んでもらえるような公園の建てつけにしていくのかということは、考えていきたいと思っています。

（参加者）

一つ、競輪場を子どもたちが遊べるようなことは、無理ですか。

（市長）

競輪場は、先ほどお話ししたように、今年の10月に改修が終わると。北側のエリアのところに、今、市民の丘ってありますけれども、同じように広場ができて、競輪開催していないときには一般開放をするようになりますので、そこで別にお子さんも入って遊ぶことはできる。

ただ、野球とかそういうことではあれなんだけれども、広場という形では活用していただけるのかなということで。

（参加者）

二中裏の運動広場なんかも、すごくもったいないなと。

（市長）

二中の運動広場は一応、競輪場で管理していますが使っていいですよ、別に入って。

（参加者）

いいんだけど、何か使い勝手がよくない。

（市長）

ただ、将来的にはちょっと、賛否はあると思いますが、道路の関係があって、二中もセットバックするんですよ。自衛隊もセットバックする。一応、競輪場の駐車場というのが主目的なので、空いているときには貸出しもしていますし、夕方になると犬を走らせている人もいるし、そこら辺は比較的緩い感じで使っていただけるのかなと思います。

（改革推進課長）

それでは、以上をもちまして、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

（市長）

どうもありがとうございました。

—— 了 ——